

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	文学国語（文学国語）	2	家政科	2
教材・副教材	文学国語（桐原書店） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業、2・3年継続履修です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ○文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫する力を身につける。 ○文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉える能力を育成する。 ○人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○小テスト ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○課題の点検 ○発表態度の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○課題の点検 ○発表態度の観察 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	随筆 小説1	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り、ものの見方を広げる。 ○登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 ○評論に述べられた内容を的確に理解し、「言葉」の意義や特質について考える。 ○小説を読み、そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から、生きることへの考えを深める。 ○詩歌や俳句と、俳句に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ○小説における場面展開や、人物の性格・心理の描写を読み取る。 ○具体例や引用と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学の価値や意義について考える。 ○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み、現代の社会や自らの生活を捉え直す。
	第2回	評論1 小説2	
	第3回	詩歌 小説3	
後期	第4回	評論2	
	第5回	小説4	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	国語表現（国語表現）	3	家政科	2
教材・副教材	国語表現 改訂版（大修館書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>			
講座内容	<p>※この講座は、通年、一斉授業、2・3年継続履修です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する力を培う。 ○相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力を身につける。 ○社会的な話題や自己の将来などを題材に、自分の思いや考えについて、的確な表現や語句を用いて書く能力を育成する。 ○自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」の各領域において、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、効果的に使おうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	書いて伝える 小論文・レポート入門	<ul style="list-style-type: none"> ○わかりやすく読みやすい、整った文章を書く力を身につける。 絵や写真をもとに、相手に正確に伝わる文章を書く力を見につける。 ○情報を収集・分析し、自分の考えを深め、それを効果的に伝えられるよう、論理の構成、文体などについて学ぶ。 ○自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望をもつ。 自分の特長を他者に的確に伝える力を身につける。 ○メディアによる特性・特徴の違いについて理解する相手や目的に応じてメディアを選択し、効果的に表現する。 ○目的に応じて情報を整理し、内容や表現のしかたを工夫して話したり聞いたりする。聞くことを通じて表現のしかたの工夫について理解し、自らの表現に役立てる。 ○場に応じた適切な表現や、目的に応じた効果的な表現を意識して、話したり聞いたりする。相手の考えを尊重しながら自らの考えを主張し、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。
	第2回	自己PRと面接	
	第3回	メディアを駆使する	
後 期	第4回	声とコミュニケーション	
	第5回	会話・議論・発表	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
国語	古典探究（古典探究）	2	家政科	2	
教材・副教材	新編 古典探究（数研出版） 読解を大切にする 体系古典文法（数研出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業、2・3年継続履修です。 ○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 ○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通して、自己の学習課題を分析し、解決する。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検	○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話1 (古文) 小話 (漢文) 歌物語 (古文)	<ul style="list-style-type: none"> ○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。 ○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。 ○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。
	第2回	詩1 (漢文) 随筆1 (古文) 史記1 (漢文) 軍記物語 (古文)	
	第3回	思想1 (漢文) 小説1 (漢文) 日記1 (古文)	
後期	第4回	作り物語1 (古文) 詩2 (漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。
	第5回	歴史物語1 (古文) 思想2 (漢文) 文1 (漢文)	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	現代語入門（現代語入門）	1	家政科	2
教材・副教材	パスポート国語必携 国語常識の演習と確認（桐原書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	国語を的確に理解し適切に表現するために必要な言語の知識・技能を身につけさせるとともに、言語に対する関心を高め、現代の国語の向上を図る態度を育てる。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業、2・3年継続履修です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすること。 ○文章や文の組み立て、語句の働き、表記の仕方などを身につけること。 ○漢字や漢語の特質を理解し、常用漢字の読み書きに習熟すること。 ○場面や状況・目的に応じた言葉遣いができるようにすること。 ○論理的に物事を考える力とその表現力を身につけること。 ○自己を知ることとその魅力が伝わるような表現力を身につけること。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通して、自己の学習課題を分析し、解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	国語を的確に理解し適切に表現するために必要な言語の知識・技能を身につけている	国語を的確に理解し適切に表現している。	言語に対する関心を高め、現代の国語の向上を図ろうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査 ○ワークシート ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○ワークシート ○課題の点検 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	常用漢字 同音語・同訓語 対義語	<p>○漢字や漢語の特質を理解し、常用漢字の読み書きに習熟し、的確な語句や表現を用いて書く能力を身につける。</p> <p>○語句の意味、用法を理解することを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>○語句の知識を活用して、文章や文の組み立て、語句の働きなどを身につける。</p> <p>○現代の国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解を深める。</p>
	第2回	対義語 類義語 漢語	
	第3回	熟語 現代用語・カタカナ語	
後 期	第4回	慣用句 ことわざ 故事成語	
	第5回	文章中の語句 語句を適切に使った文章表現	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民	公共（公共）	2	家政科	2
教材・副教材	高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
科目の目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ○よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 <p>※人間と社会の在り方についての社会的な見方・考え方 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としてのあり方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や論理などと関連付けて考える。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するために必要な概念や理論について理解する。諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ○現実社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画に向けて議論する力を養う。 ○よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間で主権を担う公民として、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。 <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉える。 ○論理的・批判的に思考する力：「幸福、正義、公正」といった視点を必要に応じて組合せながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせる。 ○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力、志高く挑戦する力、自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から論理的主体などとして活用するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができた。	現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができた。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めることができた。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○振り返りシート○授業参加の態度	

年間指導計画			
期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○導入 1 公共的な空間と人間のかかわり ○導入 2 人間としてのあり方生き方 ○導入 3 選択の手がかりとなる倫理的価値 ○導入 4 自立した主体 ○導入 5 公共的な空間づくりを目指して 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共的な空間において、社会に参画するための自立した主体となることの意義を考える。 ○人間と社会のあり方を考察・構想するのに必要な「幸福・正義・公正」といった価値基準を身に付ける。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題 1 法や規範の意義と役割 <ul style="list-style-type: none"> 1 法と基本的人権 2 自由平等と法規範 ○主題 2 契約と消費者の権利・責任 <ul style="list-style-type: none"> 1 契約と法 2 消費者の権利と責任 ○主題 3 司法参加の意義 <ul style="list-style-type: none"> 1 裁判所と人権保障 ○主題 4 政治参加と公正な世論の形成 <ul style="list-style-type: none"> 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 立法と行政 4 地方自治と住民の福祉 ○主題 5 国際社会と国家主権 <ul style="list-style-type: none"> 1 国際法,領土問題 2 国際連合の役割と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ○身の周りの偏見・差別, 不平等といった問題について理解し, その解決に向けて考察する。 ○個人や社会の紛争を法に基づき解決するしくみと国民が果たすべき責任を理解する。 ○対等な当事者間の合意にもとづく契約が, なぜ必要なのかを理解する。 ○選挙の意義や課題, 世論の形成や政党の役割や主権者である国民と国会・内閣の関係, 地方自治の役割を理解する。 ○国際社会はどのように成立しているのか理解し, 領土問題の現状・国際連合の取組みを考える。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題 6 日本の安全保障と防衛 <ul style="list-style-type: none"> 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶 ○主題 7 国際社会の変化と日本の役割 <ul style="list-style-type: none"> 1 今日の国際社会 2 人種民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割 ○主題 8 雇用と労働問題 <ul style="list-style-type: none"> 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題 ○主題 9 社会の変化と職業観 <ul style="list-style-type: none"> 1 産業構造の変化と課題 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解し, 軍縮や核兵器の廃絶に向けて何が必要かを考える。 ○国際社会における必要な日本の役割を理解し, 人種・民族問題と地域紛争の背景・現状を踏まえ, 私たちに何ができるかを考える。 ○グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において, 将来の働き方をどのように考えていけば良いかを考える。
後期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題10 市場経済の機能と限界 <ul style="list-style-type: none"> 1 市場経済の経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉 ○主題11 金融の働き <ul style="list-style-type: none"> 1 金融の意義や役割 ○主題12 財政の役割と社会保障 <ul style="list-style-type: none"> 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ○需要・供給の関係を通し, 公正で自由な資源配分を実現できるしくみを理解する。経済活動から, 豊かに暮らすための指標について考える。 ○金融市場や中央銀行が経済にどのような役割を果たしているかを理解し投資の意義を考える。 ○少子高齢化が進む中, 財政や社会保障を持続可能なものにするために政府はどのような役割を果たしていくべきか, その課題を含め考える。
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○主題13 経済のグローバル化 <ul style="list-style-type: none"> 1 国際分業と国際貿易 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化 4 地域的経済統合 5 貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから <p>第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○経済のグローバル化や, 地域経済統合の動きを通して, すべての人が幸福に暮らすために, 国際社会や私たちがどうあるべきかを考える。 ○持続可能な社会, 公共の精神をもった自立する主体となることに向けて, 幸福・正義・公正などに着目して現代の諸課題を探究する。

* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学Ⅱ（数学Ⅱ）	2	家政科	2
教材・副教材	新 高校の数学Ⅱ（数研出版） ポイントノート数学Ⅱ（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな式、図形と方程式および三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数の範囲や式の性質に着目し等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	第1章 複素数と方程式 第1節 式の計算 1. 式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 分数式の計算	○多項式の乗法・除法および分数式の四則演算について理解できるようにする。
	第2回	第2節 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 多項式のわり算 5. 因数定理 6. 高次方程式	○数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、2次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。
	第3回	第3節 式と証明 1. 等式の証明 2. 不等式の証明 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ○座標や式を用いて、直線の性質や関数を数学的に表現しその有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
後期	第4回	第2節 円 1. 円の方程式 2. 円と直線 3. 軌跡 4. 不等式と領域	○座標や式を用いて円の性質や関係を数学的に表現し、それらの有用性を認識する。図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第3章 三角関数 1. 三角比 2. 一般角 3. 三角関数 4. 三角関数の相互関係 5. 三角関数の性質 6. 三角関数のグラフ	○角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学 A（数学 A）		1	家政科	2
教材・副教材	新高校の数学 A（数研出版） ポイントノート数学 A（数研出版）				
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○場合の数と確率、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○不確実な事象に着目し確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間関係などに着目し図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート		○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート		○課題 ○行動観察 ○ワークシート

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合 2. 集合と要素の個数 3. 和の法則と積の法則	○場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○確率の意味と確率を求めるときの基本的な法則や考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第2回	4. 順列 5. 組合せ	
	第3回	第2節 確率 1. 事象と確率 2. 確率の計算 3. 独立な試行と確率	
後 期	第4回	4. 条件付き確率 5. 期待値	○平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第5回	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心, 内心, 重心	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	物理基礎（物理基礎）		2	家政科	2
教材・副教材	高等学校 物理基礎（第一学習社）				
科目の目標	<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して，物体の運動とエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 観察・実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※ この授業は，通期，一斉授業です。</p> <p>○様々な現象について観察，実験などを通して，規則性や関係性を見いだして表現できるようにする。</p> <p>○日常現象に興味を持ち，複雑な物理現象について理解できるようになる。</p> <p>○これまでに得た知識を用いて，日常生活や社会を支えている科学技術に興味・関心をもつことができるようになる。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○斜面上をくだる台車の運動や，台車を一定の力で引く実験などを行い，様々な運動の法則性を理解することができる。</p> <p>○運動を表す式や法則を用いて，問題を解くことができる。</p> <p>○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。</p>	<p>○静止している物体や，運動している物体のようすを図や矢印で表し，それらから式や法則を見出すことができる。</p> <p>○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べるができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。</p>	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引きおこされるかを問い，探究していく態度を育むことができる。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○実験</p>	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○授業にのぞむ姿勢</p> <p>○授業ノート</p> <p>○課題</p>		

年間指導計画			
期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第I章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動	①速さと速度のそれぞれの特徴を学習し、直線上の運動における速度の合成や相対速度を理解する。 ②物体が直線上を運動する場合の加速度について理解し、一定の加速度で運動するようすを式やグラフで表す。 ③物体が落下するときの運動の特徴について学習し、運動のようすを式やグラフで表す。
	第2回	第I章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則	①物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 ②力の合成、分解を学習し、物体にはたらく力のつりあいを理解する。 ③物体を一定の力で引く実験などを行い、運動の3法則を理解する。
	第3回	第I章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則 第3節 仕事と力学的エネルギー	①物体に摩擦力や浮力がはたらくときの運動を理解する。 ②物理における仕事の意味を学習し、仕事の原理、仕事率について理解する。 ③運動エネルギー、位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 ④力学的エネルギー保存の法則についての実験などを行い、仕事と関連づけて理解する。
後 期	第4回	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー	①熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する。 ②熱に関する実験などを行い、熱容量、比熱、熱量の保存などを理解する。
	第5回	第III章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第IV章 電気 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用	①ばねやひもなどを用いて波が伝わるようすを観察し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなど、波の基本的な特徴を理解する。 ②波動実験器などを用いて、波の重ね合わせや独立性、定常波、波の反射について理解する。 ③気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連づけて理解する。 ④電磁波の特徴を学び、電磁波が現代の社会生活に広く利用されていることを理解する。 ⑤放射線の種類と性質、放射性物質の基本的な性質、および原子力の利用とその課題について理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	化学基礎（化学基礎）	2	家政科	2
教材・副教材	○新編 化学基礎（数研出版） ○新編 化学基礎 準拠整理ノート（数研出版）			
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業です。 ○化学と人間生活とのかかわりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解させるとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けさせる。 ○原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。 ○化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○観察・実験	○観察・実験	○授業態度 ○課題	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	I 化学と人間生活 1 化学とは何か 2 物質の成分と構成元素	○日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
	第2回	II 物質の構成 1 原子の構造と元素の周期表	
	第3回	II 物質の構成 2 化学結合	
後 期	第4回	III 物質の変化 1 物質と化学反応式 III 物質の変化 2 酸と塩基	
	第5回	III 物質の変化 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	生物基礎（生物基礎）		2	家政科	2
教材名・副教材名	i 版 生物基礎（啓林館） Navi&トレーニング 新訂版 生物基礎（啓林館）				
科目の目標	<p>生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>○観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>※理科の見方・考え方 自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○生物の特徴について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ，観察，実験を通して探究し，多様な生物な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。</p> <p>○ヒトの体の調節について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ観察，実験を通して探究し，神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。</p> <p>○生物の多様性と生態系について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技術を身につけ観察，実験を通して探究し，生態系における，生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 ○生物に関する概念や法則を理解し，問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し，創意工夫を凝らし実験を行うことができる。	○生物や生物現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式，グラフにまとめ，自分の考えを述べることができる。また，データやグラフを解析し，法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ，それがどのように引きおこされるかを問い，探究していく態度が身についている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1部 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性	生物の特徴について、その特徴、遺伝子とその働きを理解すると共に、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
	第2回	第2部 エネルギーと代謝 1章 呼吸と光合成	細胞内でのさまざまな化学反応によって生命活動が成り立っていることを理解し、そのために非常に多くの酵素が必要であることを理解する。 生命活動に必要なエネルギーの獲得にかかわる光合成と呼吸について学習する。
	第3回	第3部 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報の複製と分配	DNAが基本骨格を理解し、塩基配列が遺伝情報になっていることを理解する。 すべての細胞は核をもち、体細胞分裂によってDNAが正確に複製されることを理解する。
後 期	第4回	3章 遺伝情報の発現	DNAの塩基配列がアミノ酸配列に置き換わり、アミノ酸が結合してタンパク質が合成されることを理解する。
		第4部 ヒトの体内環境の維持 1章 体内での情報伝達と調節	体内環境＝体液であることを理解し、この環境を一定に保つために各器官が自律神経やホルモンによって調節されていることを理解する。
	第5回	2章 体内環境の維持のしくみ	体内環境の調節として「血糖調節」を取り上げ、理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
保健体育	体育（体育）	3	家政科	2
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）			
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって運動、スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。 ○課題解決のために思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。 ○仲間と競争や協働の経験を通して、互いに認め合い、高め合うことができる。 <p>※体育の見方・考え方とは、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体づくり運動」では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整え体力の向上を図る。 ○「体育理論」では、体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。 ○選択制授業では、生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう、また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てる。 <p>履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）、体育館シューズ、グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を活用する力：chromebook や iPad などの ICT ツール等を活用し、スキルアップの方法や自己の運動課題を解決することができる。 ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話が生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール、試合の進め方等を理解し、実践することができる。また、各種目に必要な技能や体力を身につけ、努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し、話し合い活動へ積極的に関わったり、課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また、自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント ○相互評価 など	○授業観察 ○まとめプリント（記述） ○相互評価 など	○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		体づくり運動 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	<p>○様々な競技の特性に触れ、技能・競技のルール・試合の進め方などの知識を習得することができる。</p> <p>○仲間とともに課題解決に向けて思考し、自分の考えや思いを表現、伝えることができる。</p> <p>○授業中はグループ活動やチームでの活動も多く行うことから、仲間と競争や協働の経験を通して主体的かつ意欲的に活動を行う態度や人間力を身につけることができる。</p> <p>○生涯にわたって運動やスポーツを継続していきたいと思うような学習内容を多く取り入れて競技の特性や魅力に触れることができる。</p>
		選択制授業前期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
		ダンス 体づくり運動	
		選択制授業中期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール ソフトボール・テニス	
後 期			
		体育理論	
		選択制授業後期 選択種目 柔道・ダンス・器械体操・陸上競技 卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール サッカー・テニス	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
保健体育	保健（保健）		1	家政科	2
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店） 図説現代高等保健（大修館書店）				
科目の目標	<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯の各段階で健康課題が変化することを理解するとともに、健康が保持増進される仕組みなどの知識を身につけるとともに、日常生活の中に実践できる技能を身につけることができる。 ○健康課題の発見や課題解決に向けて思考、判断するとともに自らの考えを仲間に伝え、共有することができる。 ○生涯を通じて、自他の健康の保持増進に興味、関心を持ち、心身ともに健康的な人生を送ろうとする態度を養うことができる。 <p>※保健の見方・考え方とは、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生涯を通じる健康」では、思春期から中高年期までに出会う様々な健康問題について学ぶとともに、労働と健康との関係や、働く人々の健康が保持増進される仕組みなどについて学習する。 ○「健康を支える環境づくり」では、周囲の自然環境や食品に関する健康問題を学ぶとともに、社会の制度や保健活動といった社会環境のあり方について学習する。また、社会全体の健康を高めるために、私たち一人ひとりが環境づくりに積極的に参加する意義やその方法について学習する。 <p>具体的な単元：「思春期と健康」「妊娠・出産と健康」「働くことと健康」 「環境と健康にかかわる対策」「食品衛生にかかわる活動」など</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：教科書だけにとらわれず、目の前で起こっている健康課題も学び、社会に出た際に活用できる知識を身に付ける。 ○情報を活用する力：グループでの調べ学習では、たくさんの情報から選択していく力が身につく。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、その技能が身に付いている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目標や状況に応じて他者に伝えることができる力が身についている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える健康づくりを目指し、課題の解決に向けた学習づくりに主体的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○授業ノート・プリント ○小テスト ○授業観察 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業ノート・プリント ○授業観察 ○課題学習における制作物や提出物 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○提出物 ○授業ノート・プリント ○授業観察 など 		

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
芸術	音楽Ⅱ（音楽Ⅱ）		2	家政科	2
教材・副教材	MOUSA2（教育芸術社）				
科目の目標	<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。</p> <p>○主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養うことができる。</p> <p>※音楽的な見方・考え方</p> <p>感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○歌唱表現・器楽・創作において、それぞれに関する知識や技能を得て生かしながら、個性豊かに創意工夫できるようにする。</p> <p>○鑑賞に関わる知識を得て生かしながら、曲や演奏に対する評価と根拠や音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりなどを理解し、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解し、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。表現携帯の特徴や表現上の効果を生かし、他者との調和を意識して演奏している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、関わりについて考えるとともに、どのように音楽をつくりあげるかについて独自の表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 		

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
芸術	美術Ⅱ(美術Ⅱ)		2	家政科	2
教材・副教材	美術 2(光村図書)				
科目の目標	<p>美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</p> <p>○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>○主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> <p>※造形的な見方・考え方 感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○アイディアスケッチ等を活用し、自分の考えや表現したいイメージをより深く追求したりしていく。</p> <p>○教科書に掲載されている作品を鑑賞し、その特徴や表現方法を学びながら、創造活動の幅を広げる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じてながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	表現および鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方について理解を深めている。 教材や用具の特性を生かして、自分の意図に応じて表現方法を工夫し、創造活動を行うことができる。	アイディアスケッチで自分の思いや考えをまとめることができる。 授業を振り返り、感じたことや学んだことをまとめることができる。	他者の考え方を尊重しながら自分の意見や考えを持ち、作品に反映しようとしている。 感じたことや考えていることを自分の言葉でまとめている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○提出作品	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ	○授業態度の観察 ○ワークシート ○振り返りシート ○アイディアスケッチ		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
芸術	書道Ⅱ（書道Ⅱ）	2	家政科	2
教材・副教材	書Ⅱ（教育図書）			
科目の目標	<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と深く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>○楷書・行書・仮名の書の用筆法・運筆法を身につけ、それぞれの書体の持つ美しさを感じることができるようにする。</p> <p>○臨書で培った筆法により、創作の中で自分の心象風景を表現できるようにする。</p> <p>○古今の名作や他の生徒の作品を鑑賞する中で、書に関する見方・考え方を働かせ、自分の考えや感じたことを話せるようにする。</p> <p>○様々な書活動を通じて生涯にわたり書を愛好する心情を養う。</p> <p>※書に関する見方・考え方</p> <p>書の特質に即して物事をとらえる視点や考え方で、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○書道Ⅰの内容をふまえ、書写からより芸術的書道の内容に深く入っていく。</p> <p>○おもに創作を中心に書きたい語句を選択し、美しく表現した上で、作品として鑑賞できるよう、表具も仕上げる。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。 書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○作品の評価	○授業態度の観察 ○作品の評価 ○鑑賞課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題の点検	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
外国語	英語コミュニケーションⅡ（英語コミュニケーションⅡ）	4	家政科	2	
教材・副教材	All Aboard English CommunicationⅡ(東京書籍) All Aboard English CommunicationⅡワークブック(東京書籍)				
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合うやり取りができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができる。 <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業ではペアワーク・グループワークなどに積極的に取り組むとともに、スピーチなどでは他の意見を受容し、自らも積極的に表現します。 ○授業と同様に家庭学習も大切にします。学習したことを振り返り、課題などに取り組みます。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などで、より上位の級の合格を目指す。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	<p>情報を活用する力</p> <p>論理的・批判的に思考する力</p> <p>自分の考えを表現する力</p>	<p>対話し協働する力</p> <p>志高く挑戦する力</p> <p>自律しやり抜く力</p>		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○小テスト ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○提出物 ○小テスト ○授業態度の観察 		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Pre-Lesson My Plans for This Year 今年やってみたいこと Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島 関係代名詞 what Let's Listen 1 ホテルにチェックイン Communication 1 病院で診察	○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらず、ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が求められる。 ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト 比較表限 Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界 itの用法 文法のまとめ 1	
	第3回	Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく 間接疑問文 Let's Listen 2 世界自然遺産	
後 期	第4回	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語 to不定詞を含む表現 Reading 1 Mujina 文法のまとめ 2	
	第5回	Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ 動詞の目的語になるif節	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）	課題研究（課題研究）	2	家政科	2
教材・副教材	家庭科問題集 被服編（公共財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会） 日本語ワープロ検定試験問題集（日本情報処理検定協会）			
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>○生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>○課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>家庭科技術検定被服製作（洋服）・（和服）・日本語ワープロ検定試験より、2つ選択し受検する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○志高く挑戦する力：身につけた専門的な知識と技術をいかして、家庭科技術検定などでより上位の級の合格を目指すなど、挑戦する力を身につける。</p> <p>○専門的で高度な技術力：被服製作やワープロについて、自身の興味関心に基づいて選択することでより専門的な技術を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○実習内容 ○課題の点検 ○作品	○授業態度の観察 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○課題の点検	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）	保育実践（保育実践）	4	家政科	2
教材・副教材	保育実践（実教出版） 保育実技児童文化財の魅力とその活用・展開（萌文書林）			
科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通じ、保育を担う職業人として必要な資質・能力を育む。 ○子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。			
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○子供の表現活動と保育に関連する知識・技術を学ぶ。 ○子育て支援と保育の充実に関する制度やこれからの子育て支援のあり方について学ぶ。 ○保育活動を主体的に計画し、実践することができる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○自分の考えを表現する力：エプロンシアターなどの児童文化財を題材として、保育の専門職を目指して他者と意見交換を重ね、子どもたちの興味を引き出し、豊かな感性を育むための具体的な演じ方を追求する。 ○専門的で高度な技術力：授業で身につけた技術を活かして、家庭科技術検定の合格を目指す。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決することができる。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○実技テスト ○作品	○定期考査 ○ワークシート ○振り返り	○ワークシート ○振り返り ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第3回	子供の表現活動の面白さ	<ul style="list-style-type: none"> ○保育における子供の表現活動の意義と重要性を理解する。 ○子供の表現活動に関連する技術が身につけ、工夫できるようになる。 ○子供の造形・描画表現が子供の創造性を育てる上で重要な活動であることを理解する。また、様々な素材を用いた壁面構成の技術を身につける ○子供の想像力と思考力を高める活動であることを理解し、言葉やイメージが豊かになるよう援助方法を知る。 ○エプロンシアターについて理解し、実際に作る。 ○音楽・身体表現の重要性を理解し、子供が音楽に親しみ、歌を歌ったり、リズム楽器を使ったりするなどの技術を身につける。
		造形表現活動	
		言語表現活動	
		音楽・身体表現活動	
後期	第4回	情報手段などを活用した活動	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビやビデオなど身近な事例を通じ、子供の発達や心身への影響を十分に考慮する大切さを理解し、情報手段を保育にどう活用できるかを考える。 ○表現活動に関わる内容を、保育や子育て支援の実践においてどう生かすことができるかを考える。 ○少子化や育児不安・孤立感など、子供と家族を取り巻く社会や環境の様々な変化に伴う諸問題から、子育て支援の意義と役割について理解する。
		表現活動の実際	
		子供・子育ての問題	
後期	第5回	子育て支援のための各種施設	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域の子育て支援関連施設の役割について理解する。 ○具体的に各施設においてどのような支援を行っているかを理解する。 ○保育所や認定こども園など、保育施設に入所している子供の保護者を対象とする子育て支援の意義と役割について理解する。 ○各保育施設における活動を想定し、どういった活動ができるのか部分的な計画を作成することが出来る。
		子育て支援の実際	
		保育の活動計画	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
家庭（専）	生活と福祉（生活と福祉）		2	家政科	2
教材・副教材	生活と福祉（実教出版） 生活と福祉 学習ノート（実教出版）				
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の健康と生活、介護などに関する知識・技術について学ぶ。 ○高齢者介護に必要な、ベッドメイキング・体位変換・車椅子の介助などの基本的な技術を学ぶ。 ○レクリエーションを主体的に計画し、実践する。 ○自立生活支援と福祉の充実に関する制度や介護のあり方について学ぶ。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自律しやり抜く力：高齢者介護に関する実習を通して計画に従って主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。 ○専門的で高度な技術力：エキスパートによる講義・実習指導を通して、専門的な知識技術を学ぶ。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	高齢者介護に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、実践することができる。	高齢者介護に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、身近な問題の解決する力を身に付けている。	高齢者介護について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○人の一生と生活・健康 健康の概念, ライフステージと健康管理 ○高齢化の現状と高齢者の特徴 高齢者の心身と特徴と病気 高齢者の生活課題と施策 ○介護・看護の実習, 検温・脈拍測定 ベッドメイキング, 口腔の清潔, 体位交換 	<p>○高齢者介護と福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を身につけた上で, 身近な問題や課題を多様な視点から捉え, 主体的かつ協働的に問題解決にむけて取り組むことができることをねらいとする。</p>
後期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化の現状と高齢者の特徴 高齢化の現状 ○高齢者の自立生活支援 自立生活支援の基本となる考え方 高齢者介護 ○レクリエーション実習 レクリエーションの意義と目的 レクリエーション実習 ○介護の実習 衣服の着脱の介護, 身体の清潔の介護 車椅子の移乗・移動の介護, 食事の介護 	
	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者支援の法律と制度 社会保障制度と高齢者福祉のあゆみ 介護保険制度 高齢者支援と地域包括ケアシステム ○介護の実習 排泄の介護 脱水, 熱中症, 糖尿病 応急手当, 心肺蘇生法 	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		○住生活と住居の変遷 住生活の変遷と住意識 気候風土と住居 生活様式と住居	○日本と生活の住生活や住文化の多様性について理解する。 ○快適な住空間，安全な住空間をつくるために課題を発見し，その解決に向けて考察する。
	第2回	○住居の選択と管理 住居の選択と住情報	
		○ミニチュアルームの製作 ○インテリアグッズの製作 ○武家屋敷見学 ○町家散策	
後 期	第4回	○住居の設計 設計とは 住居の設計 図面をよむ 図面をかく	○インテリアデザインの構成要素，表現方法について理解し，関連する技術をみにつける。 ○住生活と福祉，住空間のバリアフリー化について理解する。
	第5回	○インテリア インテリアの基本 各室のインテリア	
		○インテリアグッズ製作 ○福祉住環境と室内計画	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
家庭（専）	ファッション造形（ファッション造形）		4	家政科	2
教材・副教材	ファッション造形（実教出版） 家庭科問題集 被服編				
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通してファッション製品の創造的な製作を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>○ファッション造形に関する課題を発見し、ファッション製品製作を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>○衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○立体裁断と平面製図の特徴や方法について基本的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>○被服材料の種類や特徴を知り、適切な選択と取り扱いについて学ぶ。</p> <p>○セミタイトスカートや幼児服の製作を通して、洋服の製作に関する理論と技術を学ぶ。</p> <p>○ファッションを表現する課程を具体的な作品製作を通して学ぶ。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○自律しやり抜く力：衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。</p> <p>○専門的で高度な技術力：デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、製作することができる。	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、製作に向けて考察している。	被服製作において計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	採寸 製図の書き方（文化式） 裏付きスカート製作 裁断・印付け 縫製 ・ファスナー	○被服製作を通じて、製作の用途に適した被服材料の適切な選択と製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を身につけ、計画に従って能率的に、主体的かつ協働的に取り組むことができることを目指す。
		女兒服のデザイン選定 女兒服の製作（かこみ製図） 裁断・印付け 縫製 ・ギャザー	
後 期	第4回	ピンワーク講習会 ワンピースの製作製図 裁断・印付け	
	第5回	縫製 部分縫い ・コンシールファスナー 作品の演出方法	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
家庭（専）	フードデザイン（フードデザイン）		2	家政科	2
教材・副教材	フードデザイン 新訂版（実教出版） Super Live View 家庭科 資料＋食品成分表（東京書籍） 家庭科問題集 食物編（全国高等学校家庭科教育振興会）				
科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ○食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。				
講座内容	この授業は、通期、一斉授業です。 ○栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートに関する分野を学習し、食事を総合的にデザインする能力・態度を身につける。 ○調理実習については、日常食の献立に加え、供応食・行事食の調理を中心に学ぶ。 ○家庭科技術検定食物調理技術準1級を受験する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○志高く挑戦する力：身につけた専門的な知識と技術をいかして、家庭科技術検定などでより上位の級の合格を目指すなど、挑戦する力を身につける。 ○専門的で高度な技術力：栄養や食品に限らず、献立作成、テーブルコーディネートなどの実践的かつ専門的な技術を身につける。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	栄養や食品、調理などの食生活全般の基本的な知識を理解するとともに、基礎的・基本的な調理技術を身に付けている。	食生活の現状から課題を発見し、よりよい食生活を実現させるために課題を創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の充実向上を目指すために主体的に課題解決に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、実習では他者と協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	食の衛生と安全 調理実習① 調理実習②	○ 1年次に身につけた知識・技術を活用し，食生活の課題に対して，合理的かつ創造的に解決する力を養うとともに，食生活の総合的なデザインに主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	第2回	消化吸収 社会人講師(日本料理) 調理実習③ 調理実習④	
	第3回	コンクール応募 調理実習⑤ 食物調理準 1 級検定説明 献立作成・筆記対策	
後 期	第4回	食物調理準 1 級検定 献立作成・筆記対策 調理実習⑥ 調理実習⑦ テーブルコーディネート	
	第5回	家政科展準備 調理実習⑧ 社会人講師（テーブルコーディネート）	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
家庭（専）	食品（食品）		4	家政科	2
教材・副教材	食品と栄養の特性（社団法人 全国調理師養成施設協議会）				
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、多様化する食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。 ○食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○代表的な食品の栄養的特徴、調理上の性質、利用法などについて実習・実験をとおして学習する。 ○食品の加工については、目的、方法、成分の変化を、食品の貯蔵については、代表的な貯蔵の方法の原理と特徴の概要を学習する。 ○食品を使用したコンクールやコンテストに応募する。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門的で高度な技術力：食品の特徴や調理理論を理解し、実験や食品加工を通して、専門的かつ高度な技術を身に付ける。 ○自分の考えを表現する力：食品の特徴や調理過程で生じる変化を考察し、自らの考えを論理的に表現する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	食品学とは 穀類 いも及びでん粉類 砂糖及び甘味類	○食品の特徴や機能，表示について実習・実験を通して体系的・系統的に理解し，関連する技術を身に付けるとともに，適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学ぶ態度を養う。
	第2回	豆類 種実類 野菜類 果物類	
	第3回	コンクール作品応募 コンテスト作品応募 きのこ類 藻類	
後期	第4回	魚介類 肉類 卵類 家政科展準備	
	第5回	乳類 油脂類 香辛料 食品の表示	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）	和服と伝統文化（和服と伝統文化）	2	家政科	2
教材・副教材	ファッション造形基礎（実教出版） 家庭科問題集 被服編			
科目の目標	日本の伝統文化である和服を中心に日本文化に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、日本の伝統文化の伝承と創造に主体的に取り組む能力と実践的な態度を育てる。また、和服の用途と社会生活上のマナー、和服の着付けについても学び、実社会の中で活用できる能力を身につけさせる。 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2)生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
講座内容	※この授業は、通期、一斉授業です。 日本の伝統文化である和服を、ひとえ長着の製作実習や着付けなど通じて体験的に理解し実践できるように習得する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○自律しやり抜く力：和服と伝統文化について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身につける。 ○専門的で高度な技術力：ひとえ長着・半幅帯の製作を通して和裁の基礎的な技術を身につける。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	和服の変遷を知り、被服と文化の関係、人間の生活と被服とのかかわりについて正しく理解している。 和裁の基礎的な技術を身につけることができる。	社会生活上の着装のマナーを知り身に付けている。	和服と伝統文化について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	<p>○和服文化 和服の変遷について 和服と文化の関係</p> <p>○ひとえ長着の製作 構成と名称 ひとえ長着の特徴と材料の選択 見積もり 裁断方法 袖作り 背縫い くりこし揚げ</p> <p>○ゆかたデザイン（夏季休業中課題）</p>	<p>○和服と伝統文化に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけた上で、主体的かつ計画的に実習に取り組み、身につけた知識や技術を組み合わせながら多様な視点から創意工夫する姿勢を身につけることをねらいとする。</p>
	第4回	<p>○ひとえ長着の製作 肩当てつけ わき縫い すそぐけ えりつけ そでつけ</p> <p>○半幅帯の製作 帯の特徴と材料の選択 裁断 縫製</p>	
後 期	第5回	<p>○和服の着装 和服の種類と用途 着付け講習会</p> <p>○日本の伝統的な服飾文化 伝統的な手法を用いた作品の製作</p> <p>○ひな人形製作所訪問</p>	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
福祉(専)	社会福祉基礎（社会福祉基礎）	2	家政科	2
教材・副教材	実教出版「社会福祉基礎」			
科目の目標	<p>福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ○社会福祉の展望に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ○健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 <p>※福祉の見方・考え方 生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉を関連付けること。</p>			
講座内容	<p>この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代社会と社会福祉のかかわり、社会福祉の理念と意義について理解する。 ○欧米諸国や日本の社会福祉の歴史について学習する。 ○社会福祉分野の現状と課題について学習する。 <p>主な項目：公的扶助の現状と課題，児童家庭福祉の現状と課題，障害者福祉の現状と課題，地域福祉の現状と課題</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を活用する力：常に新しい情報を入手し、よりよい生活や支援の提供について考える活動を通して情報を適切に活用する力を身につける。 ○対話し協働する力：社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、実践することができる。	福祉に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、身近な問題の解決する力を身に付けている。	福祉について意欲的に学習し、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	社会福祉の理念と意義 社会福祉の歴史と次代の展望 調べ学習	○日常生活と福祉との関わり，社会福祉理念の変遷など社会福祉に関する基礎的な学習活動を通して，社会福祉の理念や意義，尊厳の保持や自立支援など理解できるようにするとともに，働くことの意義や役割，職業人に求められる倫理観を育成する。 ○諸外国や日本の社会福祉思想の歴史的変遷についての学習活動を通し，社会福祉思想の流れとその関連性，地域共生社会の実現に向けた地域福祉の意義や役割について理解できるようにする。 ○社会保障の基本的な仕組みや社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景や概要などに関する学習活動を通して，各制度の意義や役割，現状と課題について理解できる。
後期	第4回	生活を支える社会福祉・社会保障制度 調べ学習 人間関係とコミュニケーション	○人間関係を構築するための技法，基本的なコミュニケーションの技法，社会福祉援助活動の概要に関する学習活動を通し，人間関係の形成やコミュニケーション及び社会福祉援助活動の意義や役割などとともに，援助活動に必要なリーダーシップなどのついても理解できるようにする。
	第5回	地域福祉の進展と多様な社会福祉支援制度	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
英語	エッセイライティング I（エッセイライティング I）	2	家政科	2
教材・副教材	Logical English Reading Level 1（三省堂）			
科目の目標	<p>英語学習の特質を踏まえ、書くことの領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>（1）書くこと</p> <p>ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○日常的话题について、必要に応じて、言語材料や文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、英語を聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>○社会的な話題について、必要に応じて、言語材料や文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、英語を聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。</p> <p>○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などでより上位の級の合格を目指す。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	自分の意見を、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を理解している。	日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えている。	日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○パフォーマンステスト ○小テスト	○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	01 Should homework be banned? 02 Should smartphones be banned in schools ?	<p>○自分の意見を，論理の構成や展開を工夫して書いて伝えるために必要となる語句や表現を正しく理解させる。</p> <p>○日常的话题や社会的な話題について，情報や考え，気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる力を養う。</p> <p>○授業中はペアやグループでの活動において，英語で意欲的かつ積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を養う。</p>
	第2回	03 Should high school students be allowed to have a part-time job? 04 Should national and public colleges be free?	
	第3回	05 Should all Internet users use their real names on social media? 06 Do online games do more harm than good?	
後期	第4回	07 Is online education better than offline education?	
	第5回	08 Should Japanese high school students study abroad?	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。